

開心
靜聽
充滿
獻身
奉仕

日本クリスチャン・アシュラム連盟

秋季号

日本アシュラム

Autumn 1980

United Christian Ashrams of Japan

33

Silver Jubilee of Japan Christian Ashram

1955 ~ 1980

Nov. 24 (Mon) ~ 26 (Wed) 1980, at Tozanso, Gotenba,



連盟理事長 海老沢 宣道

招きの言葉

主に在る兄弟姉妹、ジョーンズ博士が初めてアシュラム退修会をわが国で開催されたから二五年を送ろうとしています。この恵みを体験した私たちは溢れる感謝をもって記念のアシュラムをあなたと共に守りたく願っています。

アシュラム発祥地インドのサトタルにおいて博士の遺鉢を継ぎ、年中多くのアシュラムを導いておられるダヤ・P・タイタス師が来援されます。飢え渴く魂、信仰の徹底を求め心ある兄弟姉妹よ。この恵みの御座に大挙して参集され、文字通り「イエスを主と仰ぐ」真の弟子となられるように。主の御名によってお招き申し上げます。

祝二十五周年記念

日本アシュラムの開催

十一月二四日(月)〜二六日(水)

静岡県御殿場市・東山荘にて

アシュラムの歴史

スタンレー兄弟が一九三〇年にヒマラヤ山中のサトタルで僅か三名で静聴と祈りの生活を始めたのが起原で、今年満五十年になる。その後欧米各国に伝えられ、戦後日本に全国伝道を二三年おきに展開された師は第四回目に日本にもこの退修生活が必要と思われて天城山荘に最初のアシュラムを開かれた。一五〇名の参加者は曾てない靈感を受け、再献身を決意、その誓約文に署名した。時は一九五五年であったから今年には正に二十五周年である。

スタンレー兄弟は来日のたびに全国数ヶ所ではアシュラムを指導されたが、最後の第十回目は全国八ヶ所で開催、各地に委員会を組織され、離日に当ってそれらの連絡協調をはかるように求められたので東京に各地区代表者の参集を願った所、全員一致して日本アシュラム連盟を結成するに至った。

その翌年からは各地区委員会の自発的な祈りと計画の下に、相互に助け合いつつ日本人だけで毎年開かれてきたことは感謝に耐えない。

われらはこの記念すべき二五周年に当り、福音信仰が正しく宣べ伝えられない嫌いのある現代キリスト教界にこの「主に聴き従う生活」の浸透を期して同志と共に決意を新たにして前進しようとしている。願くば主イエスの救いを受け主のよき証人として立たんとする兄弟姉妹がこの運動に参加協力されるよう願ってやまない。

りであって、常に新しい家族

の参加を期待している。

編集人 海老沢 宣道
発行人 大石 嗣郎
定価 一部 50円 千50円

われらの創始者が語った サト・タル・アシュラムに就て

スタンレー・ジョーンズ

キリスト教はもつとキリストらしく、もつとインド的にならなければ、インド人の魂を捉えることはできない。確かに福音は真のインド人を捉え、チラクやラマバイやサンター・シングの如き人物を生んだ。彼らは単なる西洋の模倣でなく、印度の伝統を保ちつつ創造的に世界に貢献した。今日までインドの教会は多少インドの文化から切離され、人々は良い西歐人でもインド人でもない者になった。宣教師はインド文化を伝えることができず、低い階層からの改信者はそれを持っていなかった。

インドは今やその子らをその胸に呼び返しつつある。それは正しい。インドのキリスト者はとまどっていたが、彼もインドの招きを聞いている。サトタル・アシュラムは彼らがインドに帰る助けをするために設けられた。そこは西歐人にはインドの魂に触れる場となるであろう。

名称の意味

古代インドのアシュラムは訓練するために教師が弟子たちと共に引こもった森の退修道場であった。質素な生活と高い思索がその特長である。

サトタルに於て我らもインドの服装で

インド食を摂ることにした。ヒンズー教徒の参加を迎える時は菜食にする。床に坐りサンスクリット調の歌をうたい瞑想の時は膝を折って正坐する。

ある人は時代の逆行だと言うが、それは外観であって、内容は教育的、社会的観念に於て極めて現代的である。これによって人種を超えて互に尊敬し合うことができる。ある人はこれを技巧的と感じるが、西欧の風習を技巧的と思わないように、インド式がここでは、極めて自然に適していることを知る。

いろいろな不便

東洋的になり、インドの歴史の良いものを発見しようとする時、キリスト教の特質を緩和する傾向がある。しかし我らは更に深く主の御心を知り、更に真実なキリスト者になろうとする。インドでは全ての宗教は同じであるという混合主義的傾向が強い。同情的信者は伝道心を失う嫌いがある。しかし同情と確信とは共に容易ではないが、必要なものである。同情を捨て確信のみに立つなら、自分の教義は守れるが、自分をもインドをも教えることはできない。

この道は逆行でなく前進である。同情

から確信への道である。我らは教えることができ、しかもメッセージを持つている。この前進のためには、この瞑想の場以上によい所はないと信じる。

サトタルの環境

ヒマラヤ山中の最も美しい四〇〇エーカーの土地に本館と食堂、宿舎、湖水がある。教会堂と郵便局もある。鉄道にも近い。四八〇〇呎の高地で夏も涼しく避暑にも適している。従て四月から七月にかけてアシュラムが連続的に開かれて従業員は極めて多忙である。

初期の日課

午前五時に起床の鐘が鳴る。各自は松の下などに坐って静聴と祈りをする。初めのさんびと終の主の祈りをインド語で共に捧げる他は終始沈黙の中に守る。単に黙想するだけでなく、活ける主の御言を自分の魂にしみこませようとする。

朝食後は急いで自室を清掃し、外に出て材木切り、庭掃除、石垣構築などの労作をする。午前八時に研究と共同思索のために集まる。私は新約と人道主義、神学校長はキリストの心についての研究を指導した。九時からヒンズー教の研究、ある教授がバガワド・ギタ(経典)の研究を指導。イスラムその他諸宗教の研究もなされる。

好評

海老沢宣道著

アシュラムの原則と実際

定価300円 760円

アシュラムの創始者・故スタンレー・ジョーンズ博士の直伝を受けた著者が、平易に解説し今回小冊子にまとめられた。参考書として活用されたい。

日本アシュラム編集部

177 東京都練馬区三原台 1-18-1 海老沢方

午後一杯は自由時間で各自が選んだ方法により思索する。四時半にインド音楽をきくために集まる。六時に湖畔での夕拝を守り、八時の夕食まで沈黙、その後声を上げて一書を読み、グループ毎に話合う。このような日課であった。

サトタルの標語(二つ三つ)

ここに入る者は全ての人種階級教派、信条の区別を捨てよ。

真理の愛より大きな誘因となる宗教や哲学はあり得ない。

イエスは生命の開拓者である。ここには神の思いが満ちているので、静けさこそ王者である。

アシュラムの精神

このアシュラムはあなたと私たちと神

アシュラムの五大原則

(一) キリストへの明渡し

のものである。従ってあなたにとつて人的自由と全体的兄弟愛と深い敬虔を味する。

ここでは誰も強制されないが、各自は次のことを促がされる。

ここではキリストとその真理に対する敬虔のみが、インドに対する尊敬を凌駕する。ここではインド精神とキリストの心とを共に荷負う努力をする。

話し合いに於て我らは互いの相異よりも共通の思いに達することを努める。皆が教師であり生徒であらねばならぬ。何より真理の御霊なる主への信頼が必要である。何人に対しても柔和な言で話し、他人に仕えることを特権とすること。

不満がある者は、陰口を言わず、必ず関係者とぎくばらんに話合うこと。我らの凡ゆる問題をお互いと神の前に提出し、祈りと黙想と共同思索によって道を見出すようにすること。

個人的にも全体的にも初代教会の生活に近づくため、神の導きを確保すること。祈りこそアシュラムの呼吸である。

天城山荘における第一回

日本アシュラムの誓約

讀むべきかな、我らの主イエス・キリスト。

御導きの下に我らはスタンレー・ジョーンズ博士を中心として、天城山荘のアシュラムに参加し、起居を共にして祈り且つ励み、聖霊の裕かなる恩化に浴し、

深い反省と懺悔の裡に、感激にあふれ奮起を促され、主によりて新たにせられた事を感じ奉る。

今やわが国宣教百年記念運動の展開せられおる時、賜わりし過去の大きい恵みを感じると同時に、日本の教化の前途甚だ多難なるを認め、我らはこの歴史的機會に於て、全身全霊を献げ、相寄り相扶けて福音の証し人として起たん事を決意し、ここに受けたる霊火を携えて帰り同信の友を糾合し、救霊の運動に邁進せん事を期し、厳かなる神のみ前に連署して、共に再献身の堅き誓約を結ぶ。願くば、主偕に在して、この誓約を全うする力を得しめ給わんことを。アーメン。

一九五五(昭和三〇)年二月十日
天城山荘に於て

アシュラム出席者一同



インド霊界の指導者

D・P・タイタスの横顔

今回の二五周年記念アシュラムに來援されたタイタス兄弟は、一九一三年ヒン

ズー教徒の家に生れた。父は十代で孤児となり叔父の家から逃げてドイツ宣教師に助けられ、日曜学校から聖書学院を経て、単純な福音の説教者になった。

彼は幼時ルーテル教会で養われ、英国教会で信仰に目覚め、二五才の時アッセンブリー教会で回心受洗した。十四年間英国統治下の公務員であったが、聖霊の急迫を感じ辞職して個人伝道者になり、二年後メソジスト教会の牧師として接手礼を受けた。アラール・カンブル・ラクナウなどの大教会に赴任、二十年奉仕の後全印度伝道会の総主事に指名された。

六一才から世界伝道会議のインド伝道部主事に三年働き、全インドの宣教と福音化会議の協力主事を勤め、任期満了と共に過去三〇年毎夏を過してきたサトタール・アシュラムに常住の指導者として入居して今日に至る。

貧しい家に生れ、高校だけで勿論神学校は出ていないが、神の御言を豊かに学んだことが、彼を福音に仕える者とした。ヒンズー教徒への数夜連続の伝道会を各地に開き、現在十二州の四十都市に行われている。

師は最近『コイノニヤの群、愛の工場』をインド語で、『平信徒の解放』を英語で出版、また近いうちにヒンズー教徒への説教集や『御国を来らせ給え』と『ヨハネ福音書のインド的理解』の二小冊子が印刷中である。

特に招かれて今日まで世界二十五ヶ国を宣教のために訪問し、教会、学校、病院、クラブ、刑務所などで説教をした。

- (三) 聖霊の啓導と充満
- (四) 神の国の体験と献身
- (五) 教会への奉仕と伝道

二五周年記念 アシュラムへの期待

○関東地区長 横山義孝

(一) 全国から二百名を超す参加者が与えられ、聖霊と祈りの良き交わりが持たれるように。

(二) スタンレー・アシュラムの特長は聖霊の充満、魂の全き明け渡しにある。お祭り騒ぎに終ってしまわず、今後の日本アシュラム運動の源泉となるように。
(三) これによって教会が強化され、宣教力を豊かにする生産的なアシュラムであるように。祈りつつ以上を期待します

○四国地区長 宇都宮 充

私は去六月満八十才になった。ベンジャミン博士は「問題は人生に年を加えることではなく、我々の年に人生を加えることである」と指摘した。モーセは八十才で神の召命を受けイスラエルを埃及から解放する信仰の斗いについた。日本アシュラム創始二十五周年記念大会は「イエスは主である」との旗印の下、我らの人生に新しい福音化の戦を進めたい。それは宣教の人生であり荒野の生活である。韓国では去八月世界福音化大聖会を開き一六〇万人を集めた。日本では十月にグレイハム国際大会を六ヶ所で展開したアシュラム運動は真のコイノニヤを主の教会に創建する宣教の業である。神はアルファでありオメガである。「時の後

に時はないが、時の上には永遠がある」クリスチャンは永遠の福音に生きる光栄を持つてゐる。今回のアシュラムをして全日本の福音化運動たらしめよ。

○東京城北 山根可弐

終始主の御臨在によって祝福された二十五周年記念アシュラムであることを期待し祈ります。準備のために御奉仕下さる先生方の上に主の豊かな御祝福を祈ります。お手伝いできないことお詫びいたします。

○九州地区長 川野直人

ジョーンズ博士によって開始された日本アシュラムも二五周年を迎えてひと区切りを迎えた訳です。アシュラムは日本の教会に集会の一つの型として定着したようです。聖書を神の言として、御言自体と出合い、信じ、聞き、従って行くという集会のフォームは、現代日本社会に最も欠けている一面ではないかと思えます。今回の記念アシュラムを機会に、全日本の教会に、この静かな中に神に聞くという極めて東洋的な集会が広められることを願っています。

○東京城西 洲江淳一

日本にアシュラムが行われるようになって既に二五年、漸く一般キリスト教界に知られるようになったことは喜ぶべきですが、これはカリスマ的教師のもとに集り教を受ける印度教のアシュラムと異なり、「教師はただ独り、即ちキリスト

である」(マタイ二三・一〇)

この主イエスに全てを明け渡して教派信条、人種、国籍を超え一つになることにより、各自教会に仕える聖霊の力を与えられるのであって、アシュラムに派閥のあることを当然のこととしてはならない。二五周年記念に当り、アシュラムの原点、イエス・キリストに帰ろう。いざ、帰りなん、主イエスに。

○東京城南 大石嗣郎

ジョーンズ博士が日本にアシュラムを紹介されて既に二五年がたったが、キリスト教の運動でこれ程多くの人々に親まれたものはない。神はいつの時代にも適切な器を用いて眠っている魂をゆすぶり再び教会に連れ戻される。この二五周年にアシュラムの守り方が、その名称に捕われず信者の群に教派を超えて広く静かなりバイバルを起させている。この時、更にこの運動の輪を広げることを願うと共に、そのために身も心も捧げて行く覚悟である。(連盟総務)

日本アシュラム二五年記念

感謝献金報告

『折れ、捧げよ、参加せよ』

全国百余名の兄弟が毎日の連鎖祈禱に参加して下さることほど心強いものはありません。長い間の準備も主の御助

けにより着々進められ、いよいよ東山荘で同信の友と相会する日が近づきました。ここに全国の有志から記念の感謝献金が続々捧げられてきましたので、芳名を記して厚い御協力に対し御礼申し上げます。総務理事 大石嗣郎

池上キリスト教会(十万円)

西川口教会、海老沢宣道(以上各二万円)

黒沼栄一、遠藤幸三郎、松山山越教会、二神喜十、望月英一郎(以上各三千元)

矢野末喜、志村卯三郎、斉藤隆子、久美愛教会、谷村友一郎、吉田綱代(以上各五千元)

与那嶺富志、青梅伝道所、鈴木由喜、遠藤総子、小畑信愛(以上各二千元)

洲江淳一、金子さた、柴崎美子、世光教会(以上各一万元)

住吉亮、桜井和子、藤原政太郎(以上各一千元)

村上東(郡山)(五万五千元)

江古田教会婦人会、海老沢すま、渥美彪、奈食正子、加藤董子(以上各五千元)

沢田一雄(一万円) 近藤貞子(七千元)

中屋満里子、島津昭子(以上各三千元)

桐生喜代、窪田しげの、佐藤鈴、中野米子、仁戸田壽子(以上各二千元)

吉沼せい、杉田里子(以上各一千元)

東京城西アシュラム(七、九六〇円)

北原杉尾、沢田魁、鈴木梓、山崎久右エ門(以上各五千元)

小島よね、小野一良(以上各二万円)

後宮俊夫(二万五千元)

各地だより

▽札幌アシュラム

来る十一月二七、八日真駒内青少年センターにて来日中のタイタス師を迎えて開く。連盟から総務の大石嗣郎師も同行し開会礼拝に説教をする。

初めのため加藤享委員長、平田事務局長を中心に委員一同、祈りと準備に協力している。主イエスが豊かに御霊をもて臨み給うことを祈る。

▽東京城北ミニアシュラム

(第十一回)

来る三十日(日)午後一時より中野区江原町三の江古田教会にて池ノ上、天門、新宿西、更生の五教会協力の下に守られる。このためにも御加禱の程を。

アシュラム生活の生んだ

『ヨハネ福音書講説』

日本アシュラム 連盟 理事 洲江淳一 著

B6版上製 三八〇〇円
四七〇頁 千三〇〇円

アシュラム人必読の書

〒102 東京都新宿区若松町12

おとずれ社

電話〇三(三五九)九五三九
振替 東京 三一(二二九)五

全国のキリスト教書店にてお買い求め下さい。

東京都目黒区中央町1-21-10

東京クリスチャン・アシュラム連盟

日本クリスチャン・アシュラム連盟

▼アシュラムとは故スタンレー・ジョーンズ博士がインドの退修方式を取り入れて創始されたキリスト教の新しい祈禱生活のことである。